

# 東山動植物園の慰霊祭: 動物の死の取り扱いの一例

愛知県立大学大学院国際文化研究科国際文化専攻博士後期課程  
福田薫

本稿は、人間と動物の関係を考える手がかりとするため、現代の日本において動物の死がどのように取り扱われているのか、その一例として2022年9月に名古屋市の東山動植物園にておこなわれた動物慰霊祭の様子を紹介するものである。

## 1. 動物園における慰霊の状況

前近代の日本の動物供養は、現代においても魚市場や食肉市場、食品会社、製薬会社等、何らかの形で動物を利用する職場・業界に見られる動物を弔う慣習として継続しているといわれる。動物園も動物を利用する施設であり、動物園の展示動物<sup>1</sup>、つまりその園が来園者に見てもらうために飼育する動物の死に対し、慰霊祭を実施することは今日珍しくないであろう。1882年に開園した日本初の動物園である東京の恩賜上野動物園では、動物慰霊の儀式的歴史は1931年まで遡ることができ、1937年から1945年にかけては毎年、軍用動物のための慰霊祭がおこなわれていたという<sup>2</sup>。2002年に動物園の動物慰霊碑や慰霊祭について大丸が実施したアンケート調査では、回答のあった動物園69園、水族館49館の計118施設のうち、51.7%に当たる61施設(内訳は動物園48園、水族館13館)が慰霊碑を設置しており、58施設は慰霊祭をおこなっていた。これら慰霊祭を実施している58施設のうち、50施設に慰霊碑があり、41施設が慰霊碑と慰霊祭の間に関連があるとしている。回答のあった中で、慰霊碑の建立時期はもっとも古いものが1930年代であったが<sup>3</sup>、6割以上は1970年代から1990年代である。ただし、施設の開設と慰霊碑の建立が同時期であることは少なく、半数近くの慰霊碑は、当該施設の設立後10年以上を経てから建立されている。20年以上経ってから建立された慰霊碑も3割近くを数える<sup>4</sup>。

2007年に関東地区の動物園と水族館31施設を調べたAmbrosは、慰霊イベントは大抵、9月の秋分の日(秋の彼岸)の前後、いわゆる秋の彼岸の時期に催行されると述べている。彼女は9月20日から26日は動物愛護週間であることも指摘しており、このことから秋分の日を中心とした9月下旬が動物慰霊祭の時期に相応しいと考えられた可能性がうかがえる。少数ではあるが、3月の春分の日(春の彼岸)の時期(動物愛護デーでもある)や8月15日の盆に慰霊祭が実施される施設もあるという。とはいえ、仏教等の宗教的な意味合いはなく、世俗的な形式で慰霊祭は実施される<sup>5</sup>。さらに、Ambrosは慰霊イベントでは亡くなった動物の写真や略歴等が掲示されるといった、動物の固有性・個性性を重視した擬人的な取り扱いがなされる一方で、そうした動物の遺体はモノとして処理されると説明している。教育的・科学的な目的のために死体は解剖され、その後骨格標本となったり、火葬場で焼却されたり、ゴミ処理施設で処分され

たりするのである<sup>6</sup>。

なお、比較として米国の動物園の例を見てみると、ワシントン D.C.にあるスミソニアン国立動物園の場合、死亡した動物のための葬儀や墓といったものはないが、市民からのお悔やみのカード類は受け付けられているという。動物の遺体は徹底的に解剖され、調べられ、サンプルが採取される。それらによる情報は動物園業界全体で共有し、将来の治療や研究・教育に利用する。解剖後の動物の遺骸は「グッピーからゾウにいたるまで、すべてが焼却」される<sup>7</sup>。また、DeMello の著書では、少なくとも出版当時の 2012 年前後の時点における動物の遺骸の処理・対処法について、「動物園の死亡した飼育動物のゴミ埋め立て地への廃棄は、標準的な処置」と記述されている<sup>8</sup>。

## 2. 東山動植物園の動物慰霊祭

1937 年に現在の名古屋市千種区東山元町の地に「東山動物園」として開園した名古屋市東山動植物園は、広さ約 60 ヘクタールの敷地を有し、約 500 種の動物(飼育種類数は日本一である)および約 7000 種の植物を展示している<sup>9</sup>。筆者は、同園にて 2022 年 9 月 23 日におこなわれた動物慰霊祭に一般来園者として参加した<sup>10</sup>。

慰霊祭当日の 2022 年 9 月 23 日午前 9 時半頃、東山動植物園正門に到着し、チケットを購入して中に入った。生憎の雨天で雨脚もかなり強く、祝日だというのに園内の人影はまばらで閑散としていた。慰霊祭は 11 時から慰霊碑前で開始予定であった。慰霊碑は園の西側、ライオン舎近くの一隅にある。1964 年 6 月にライオンズクラブの寄付により建立された<sup>11</sup>。2つのモニュメントから成っており、手前に「どうぶつの慰霊 名古屋市長杉戸清」と彫られた石碑があり、奥にはライオンとゾウを描いたレリーフと「名古屋東ライオンズクラブ」という寄贈者名の銘板のついた石碑が配置されている。東山総合公園管理課によれば、慰霊碑建立の経緯は不明ではあるものの、第二次大戦を生き延び、戦後の「ゾウ列車」でも知られるアジアゾウのマカニーとエルド<sup>12</sup>が建立前年の 1963 年に亡くなったことが何らかの契機として作用したのかも知れない、この 2 頭の遺体が埋められた場所は慰霊碑の裏に当たっており、2 頭が埋められているという事実が慰霊碑の建立場所の選定に影響した可能性もある、とのことであった<sup>13</sup>。



写真 1 東山動植物園の慰霊碑

慰霊碑の場所を確認してから、しばらく園内を見てまわっていると、園内放送が流れ、動物慰霊祭は雨天により、慰霊碑前ではなく動物会館にておこなう旨が伝えられた。正門の近くにある動物会館に入ると、慰霊祭は 11 時から会館奥のレクチャーホールでおこなうと案内板に書いてある。11 時少し前にレクチャーホールに行くと、奥のスクリーン前に献花台が設置されていた。献花台の上には「東山動物園ガイドボランティアズ<sup>14</sup>」と記された札の付いた花鉢、果物と野菜の籠、動物 4 頭の写真<sup>15</sup>が収められた写真立てが見える。左右には大きなスタンド花が 1 基ずつ据えられ、それぞれの贈り主札には「名古屋市東山総合公園」と「愛知県獣医師会」と書かれている。献花台前の脇にあるテーブルには、献花用の白菊が 200 本ばかり用意されている。スクリーン反対側のホール入口付近の壁には畳んだ椅子やテーブルが重ねられており、その辺りから壁際に沿うように園のスタッフ、マスコミの取材クルー、一般来園者がうろろしていることもあって、どことなく雑然とした雰囲気である。司会を担当するスタッフが慰霊祭開始を告げる頃になると、スタッフは室内中央に並んで立った。一般来園者は壁際に適当に立ったままである。こうして慰霊祭が始まったが、参加者数はスタッフ 30 人ほど、一般来園者が子ども 5 人を含む 20 人程度、マスコミ取材陣が 5、6 人といったところである。およその式次第は、1) 東山動植物園 動物園長挨拶、2) 1 分間黙祷、3) 来賓紹介・慰霊の言葉(愛知県獣医師会長、東山動植物園ガイドボランティア会長、東山総合公園長)、4) 献花(参加者全員。まず園長や来賓、次にスタッフ、最後に一般来園者の順)、といったものであった。献花は一人ずつ、用意された白菊を手にとって献花台に進み、花を供え、合掌したり札をしたりして動物たちの死を悼む、という流れでおこなわれた。11 時に始まった慰霊祭は 30 分足らずで終わり、11 時半にはホール内に残る人影はまばらとなった。雨天のため、例年より一般来園者の参加が少なかったのではないかと想像された。参加者は総勢 50～60 人だったが、献花の菊は目算だが 200 本ほど準備されていたので、天候が良ければ通常は 200 人近くの参加者が見込まれるのかもしれない。



写真 2 慰霊祭の様子① 献花台前に並ぶ園のスタッフ



写真3 慰霊祭の様子② 一般来園者の献花



写真4 慰霊祭の様子③ 献花台

慰霊祭終了後、動物会館の相談窓口<sup>16</sup>で質問し、回答いただいた。以下に概要を記載する(Qは筆者の質問、Aは窓口の担当者の回答を示す)。

Q: 東山動植物園の死亡動物の死骸はどうなるのか?

A: メダカ館のメダカの場合はどうなっているのかわからないが、それ以外は園で飼育していた動物が死んだ時は、今後の飼育や研究に役立てることができるよう、全頭病理解剖をおこなう。その後は、大きさの目安として、ウシやウマより小さいものは八事霊園<sup>17</sup>に運んで、火葬する。骨格標本にする場合もある。この動物会館で展示している骨格標本もそうしたものである。稀

に研究機関へ寄付されることもある。ゾウのような八事霊園に運べない大きな動物は園内に埋めたりする。

Q: 園内のどのあたりに埋めるのか？来園者が通る場所か？

A: 園内の空地に埋めるが、ただの空地であって、埋められたことはわからない状態である。埋める場所は、来園者が出入りしないエリアの空地である。

Q: イタチやカラス等の野生動物が園の敷地内で死んでいたような場合はどうなるのか？

A: 園で飼育していない動物の場合は、名古屋市の環境事業所に連絡して引き取ってもらう。野良猫等が路上で死んでいたような場合と同じである。

また、後日東山総合公園管理課にも確認したところでは、同園で慰霊祭がいつから催行されるようになったのか、その開始年については記録が残っておらず、詳しいことはわからないが、現在の形での慰霊祭は 20 年以上前からおこなっているのは確実である、とのことであった。判明している限りでは、慰霊祭は秋分の日かその前後の時期に実施しているそうである<sup>18</sup>。なお、記録は散発的にしか残っていないが、それらからは戦前・戦時中に軍用犬や軍用馬等の慰霊を実施していたことが確認でき、同園の前身に当たる動物園が鶴舞公園に開設されていた時期<sup>19</sup>も含め、開園間もない頃から動物の供養や慰霊と関わりがあったことがわかるという。

### 3. まとめ

今回の東山動植物園の慰霊祭の参与観察事例からだけでは、新たな知見を付加することは難しいように思われるが、注目すべき点をいくつか指摘しておきたい。1 点目は、メダカ館は東山動植物園ではある種の目玉施設であるにも関わらず、同園の飼育動物の死骸の処理方法において、メダカ館のメダカの場合は専門の相談員にも知られていないことである。他の動物と比べてメダカの存在が軽いことがうかがえる<sup>20</sup>。Ambros は、自身の調査に加え、動物園ではほぼ 7 割に慰霊碑があるのに対し、水族館ではその割合は 3 割に満たないという大丸の調査結果も援用して、「水生生物は陸生生物に比べ、生きていく間に結ぶ人間との関係が希薄な傾向にあり、一般にその死においては非人格的に扱われる<sup>21</sup>」と述べるが、これは東山のメダカにも適用される。水生生物とヒトとの関係の希薄さには、動物や生物の固有性・個性、エージェントの問題が関与すると考えられるが、特にメダカについてはその大きさ、体のサイズも無視できない要素として働いているように感じられる。次に、園の飼育動物なのか野生動物なのか、即ち人間の飼育下にあるか否かによって、園内での動物の死の扱いが大きく異なっていることである。これはスミソニアン国立動物園の場合とは対照的である<sup>22</sup>。スミソニアンでは、リス等の野生動物が同園の敷地内で死んだ場合も病理解剖している<sup>23</sup>。ただし、これは国の違いだけでなく、個々の施設としてのポリシーの違いが影響しているとも考えられ、調査対象数を拡大した上で検討すべき点であろう。3 点目は動物園における慰霊と近代性・現代性(modernity)の関係である。慰霊碑の多くは戦後、特に 1970 年代から 1990 年代にかけて設置されている。Ambros のように、動物の供養や慰霊の隆盛は近代性・現代性の兆候であり<sup>24</sup>、動物やその死がもたらす意味の変化は経済発展や大量消費の到来と無縁ではないと考えられる。これに関連して、4 点目には動物の死と、研究・教育や科学との関わりを挙げたい。動物園という展示施設の大義の一つは教育という点であり、動物園の飼育動物は存命中も死後も教育や科学のために利用されているわけであるが、そこに動物の福祉や動物の権利

という観点のみではとらえきれない、動物と我々の関係性が潜むように思われる。今後の研究で詳細な検討と考察を加えることを目指したい。

---

<sup>1</sup> 動物園や水族館等の施設で飼育されている動物を展示動物と呼ぶことがあるが、これは動物の愛護及び管理に関する法律(動物愛護管理法)による分類に基づく。同法は人間が飼養・管理する動物を対象としており、人間の飼養下でない野生動物はカバーしない。環境省、"動物愛護管理法"、2023年2月28日閲覧

[https://www.env.go.jp/nature/dobutsu/aigo/1\\_law/index.html](https://www.env.go.jp/nature/dobutsu/aigo/1_law/index.html)

<sup>2</sup> Barbara R. Ambros, *Bones of Contention: Animals and Religion in Contemporary Japan*, paperback ed. (Honolulu: University of Hawaii Press, 2018), 68, 84.

<sup>3</sup> 大丸の調査では、最も古い慰霊碑建立年は豊橋総合動植物公園の1937年、次いで徳山市立動物園の1939年であるが、いずれも現在の動物園が設立される以前のことであるという。

<sup>4</sup> 大丸秀士、"動物園・水族館における動物慰霊碑の設置状況" (口頭発表、第9回ヒトと動物の関係学会学術大会、東京、2003年3月21-22日)

[http://www.hars.gr.jp/taikai/9th.taikai/ippanendai/hideshi\\_daimaru/syouroku.htm](http://www.hars.gr.jp/taikai/9th.taikai/ippanendai/hideshi_daimaru/syouroku.htm);

[http://www.hars.gr.jp/taikai/9th.taikai/ippanendai/hideshi\\_daimaru/slide.ppt](http://www.hars.gr.jp/taikai/9th.taikai/ippanendai/hideshi_daimaru/slide.ppt)

<sup>5</sup> Ambros, *Bones of Contention: Animals and Religion in Contemporary Japan*, 85, 86.

<sup>6</sup> Ibid., 86-87.

<sup>7</sup> Jessica Ruf, "What Happens When an Animal Dies at the National Zoo? Dealing with Death Is Part of the Job," *Washingtonian*, November 11, 2022, Retrieved from <https://www.washingtonian.com/2022/11/11/what-happens-when-an-animal-dies-at-the-national-zoo/>

<sup>8</sup> Margo DeMello, *Animals and Society: An Introduction to Human-Animal Studies*, (New York: Columbia University Press, 2012) chap. 6, box 6.2, Kobo

<sup>9</sup> 1968年に植物園と一体化し、東山動植物園となった。詳細は以下を参照。名古屋市東山動植物園、"東山動植物園とは"、2023年2月27日閲覧

<https://www2.higashiyama.city.nagoya.jp/about/>

<sup>10</sup> 同園のウェブサイトやSNS等で慰霊祭の告知があり、筆者はそれを見て参加したが、当日も園内で来園者に慰霊祭への出席を呼びかける放送や案内板があるので、その場で急遽参加するケースも多いと思われる。

<sup>11</sup> 2023年3月3日東山総合公園管理課より電話にて回答いただいた。

<sup>12</sup> 同園のブログにも2頭についての記事がある。名古屋市東山動植物園、"「ぞう列車」が走った日"、オフィシャルブログ、2016年06月18日

<https://www.higashiyama.city.nagoya.jp/blog/2016/06/post-2737.html>

<sup>13</sup> 2023年3月3日東山総合公園管理課より電話回答。

<sup>14</sup> 同園では一般市民によるガイドボランティアが活躍しており、来園者に動物の説明をしたり園内を案内したりしている。

<sup>15</sup> 献花台に飾られた写真には4頭の動物が写っており、そのうちの1頭であろう「マレーグマのマー君」等、この1年で死亡した動物の名前が園長の挨拶や来賓のスピーチの中でも言

---

及されていたが、東山動植物園の規模を鑑みるに、1年で亡くなった動物が4頭ということはありません、来園者にもよく知られていた、つまり個性の顕著な4頭が代表として写真におさめられていたのではないかと推測される。なお、この時の慰霊祭について伝える以下の中日新聞の動画記事によると、47種、計106匹が亡くなっている、とのことである。馮沼義樹、"東山動植物園で慰霊祭"、*中日新聞動画*、1:18、2022年9月23日(2022年10月9日更新) <https://www.chunichi.co.jp/article/550562>

<sup>16</sup> この窓口には専門の相談員がいる。

<sup>17</sup> 八事霊園は動物の火葬もおこなう。名古屋市、"名古屋市立八事霊園・斎場"、2020年10月19日 <https://www.city.nagoya.jp/kenkofukushi/page/0000011451.html>

<sup>18</sup> 残っている記録のうち、秋分の日前後におこなっていることが確認できる最も古いものは2003年の慰霊祭の案内であるという。2023年3月3日東山総合公園管理課より電話回答。

<sup>19</sup> 東山動植物園の前身に当たる名古屋市立の動物園が1918年から1937年まで鶴舞公園に開設されていた。詳細は次を参照。名古屋市東山動植物園、"東山動植物園の歴史"、2023年3月4日閲覧 <https://www.higashiyama.city.nagoya.jp/history/>

<sup>20</sup> 興味深いことに、本稿内で先に引用した通り、米国スミソニアン国立公園ではグッピーも死後は焼却されることが同園の主任獣医師によって説明されている。

<sup>21</sup> Ambros, *Bones of Contention: Animals and Religion in Contemporary Japan*, 210.

<sup>22</sup> 東山動植物園の場合、鳥獣保護管理法等の日本の法律によって野生動物の扱いが管理されていることもスミソニアンでの対処法との差異の理由の一端かもしれない。しかし、米国にも同様の法律はあるに相違なく、動物園という専門施設であれば病気の感染・蔓延等のリスクを冒さずに野生動物の死骸の対処ができそうにも思われる。

<sup>23</sup> Ruf, "What Happens When an Animal Dies at the National Zoo? Dealing with Death Is Part of the Job."

<sup>24</sup> Ambros, *Bones of Contention: Animals and Religion in Contemporary Japan*, 87.